

明治大学校友会 東京都多摩支部  
**多摩市地域支部**  
**紫紺**



(第8号)

発行 明治大学校友会東京都多摩支部多摩市地域支部 発行日 平成29年2月1日  
 発行人 岩淵 義郎 住所 多摩市愛宕2-2-4-303 Tel/Fax 042-356-2577

新年おめでとうございます

会員皆様の

ご健康とご多幸を

お祈り申し上げます



新年会開催

平成29年1月14日(土) 10時30分から多摩永山情報教育センター3F「美膳」(多摩市諏訪2-15-1)にて、会員22名参加のもと多摩市地域支部新年会を開催しました。

司会進行を藤川幹事長が務め、岩淵支部長の年頭挨拶の後、中山副支部長による乾杯の音頭で宴は始まりしばらく料理に舌鼓を打ちながら和やかに懇談しました。笑顔の花があちこちに開き、久し振りに参加された方々からは近況報告がありました。続いて恒例となったカラオケ大会、ビンゴ大会等で歓声も沸いて、大変盛り上がりました。

最後に安波副支部長の中締め、幹事長指揮で校歌斉唱、岩永幹事による万歳三唱と続き、新しい一年の健康を誓い合って閉会しました。

明治大学校友会多摩市地域支部平成29年新年会



BOAT RACE 江戸川



10・22 ボートレース観戦

12・4 ラグビー観戦



8・19 ブルーベリー狩り



10・24 現水展鑑賞



上期活動報告

一、日産自動車追浜工場見学

矢場 岩男(S43商)

6月22日(水)校友10名、追浜駅前に集合し日産自動車主力工場である追浜工場を見学しました。

ショールームで電気自動車リーフ等の実車展示を見せてもらった後魅力的な案内嬢に導かれ2Fゲストルームへ。そこでVTRによる、オンラインCEOからの日本語によるビデオメッセージや、日本を含む日産の世界の工場の現状、工場内の車ができるまでの作業工程等の映写をたっぷり観賞させてもらいました。追浜工場は1961年稼働。総面積1699㎡、(サッカー場233個・東京ドーム36個・デイズニールランド3個分に相当)、2,700名勤務等の概要説明がありました。現在当工場は1直勤務で、電気自動車「リーフ」の他数車種を混流生産しているとのこと。

次いで工場内巡回バスにて、工場に面している完成車の積み込み専用埠頭や、生産車の駐車状況等を見学しました。ちょうど車両積み込み船(国内船)が入港しており、これには400〜800台、また輸出用の船には

五千台を、ドライバー10人が一組になって積み込むそうです。駐車場にはルノー製車両も見られました。完成車の船積みですが、一般道を使用せず工場と港をむすぶ「専用陸橋」を利用してことでプレートを付けてはいませんでした。



日産追浜工場見学

その後、組み立て工程を見学。同社はすべての工程で、「順序と時間」を守って効率的に作業する「同期生産」システムを採用しており、プレス、車体組み立て、塗装工程はロボットで、車両組立はほとんどが手作業で、行われていました。(写真は一切ダメ) この工場は受注の順に

製造する「受注生産工場」とのことですが、特に運転席まわりのロボットによる組み付けは圧巻でした。また、完成検査の走行テストでは、時速120km以上の高速回転ドラムテスト、各種ライト類等全ての機器の確認作業をしながら、片手でコンピュータへ指示を出して検査を進め、完成車として送り出されていました。完成車は、約1分に1台生産されるそうです。工場内の部品の搬送は全て、磁石コース上を動く「自動運搬車」で行われていました。(充電も自動)

再びゲストルームに戻り冷たい飲み物とおしぼりを受け取り自席につきました。お土産に「エクストレイル」のミニチュアを頂き、質疑応答に。「箱で運ばれたビス等の部品の過不足管理は?」「年間生産能力は?」「勤務体系は?」等の質問がありました。

最後に1Fのショールームで憧れの車「セフィーロ」の前で集合写真を撮り、約1時間30分の見学会は終了、日産のバスで駅まで送って頂いて大満足の見学会になりました。ただ少々残念だったのは、ロール状の鉄板を切断し、プレスして各種部品が作られるプレス工程を見られなかったことです。

二、ブルーベリー狩り

(総務部会)

8月19日、晴天だが蒸し暑い。東京の気温32℃。我が地域支部会員須藤さん経営「須藤農園」のブルーベリー狩りが行われた。

10時、熊野神社バス停集合、徒歩3分のブルーベリー農園へ。

参加会員12名と会員の娘さんとお孫さん(小2)も加わり総員14名。農園に入る前、須藤さんから次の通りの説明があった。

・当農園は農薬や除草剤の使用がないこだわり栽培である。

・(摘み取り用の籠が渡され)摘み取った物は買い取り。園内は食べ放題。(入園料無料・二千円/kg。別途小売りあり、本日は特別2割引)

・时期的にはシーズンが終了に近づいている。

・農園作業は、猛暑のため早朝5時〜8時半頃で終了。※熱射病に備え、ポカリスエット・麦茶等の準備あり。



農園主 須藤さん



國分さんご家族



ブルーベリー農園へ案内して頂き、参加者は農園の広さにびっくり。園内一杯に広がるブルーベリーの木々、完熟した甘い大粒の実を探しては、黙々と食べる。30〜40分経過後、農園内にあるミカン、カキ、栗畑等案内された。新たに柑橘系の栽培もはじめ、収穫は約10年先になる見込みとのこと。

摘み取ったブルーベリーの他に、パック詰めを買い求め、帰りは何時ものソバ屋へ。須藤さんも駆けつけ、一杯やり盛り上がりつつ終了。来年は農園内のタケノコ堀を提案、即決した。帰宅後、ブルーベリーにヨーグルトをかけ(普段は逆)、食後のデザートに。久し振りに贅沢感を味わった。



暑かった後のビールは美味しい!

### 三、刑事裁判の傍聴&

#### 迎賓館見学

伊東 勝義(S 35 商)

9月8日、台風13号通過を心配しながら、校友8名が集まりました。今回は迎賓館リポートです。

四ツ谷駅より徒歩8分に位置する赤坂離宮「迎賓館」は、かつて紀州徳川家の江戸中屋敷があったところでした。(因みに皇族が住んでいるとへ御所へ住まなくなるとへ離宮)と云うとの事)戦後十数年経って外国の賓客を迎える施設がなかったため、閣議決定を経て昭和49年に、現在の「迎賓館赤坂離宮」が完成しました。なお平成21年に本館、正門、主庭噴水池等が国宝に指定されています。

見学手順として初めに本館の「彩鸞(さいらん)の間」から始まりました。白い天井と壁は金箔が施された石膏の浮彫りで装飾され、10枚の鏡が部屋を広く見せています。ここは、表敬訪問のために訪れた来客が最初に案内される控えの間として、又晩餐会の招待客が国・公賓に謁見したり、テレビのインタビュアー等に使用されたりしています。

続いて天井に描かれた36枚の絵や、フランス製のゴブラン織風綴織壁面に飾られた30枚の楕円形の七

宝に、花や鳥が描かれ、名前の由来となった「花鳥の間」を見学。この部屋は主に国賓主催の公式晩餐会が催される大食堂で、昭和61年には第12回主要国首脳会議(G7)が行われました。そして正面中2階にオーケストラ・ボックスがあり、舞踏会場として設計され、謡曲「羽衣」の景趣を描いた大絵画が天井に描かれている「羽衣の間」、また国・公賓用サロンとして使われ、朝日を背にして女神が香車を走らせている姿の絵が天井に描かれている「朝日の間」を見て回りました。



迎賓館前にて

### 今後の事業計画

参加申込は…

伊東 [ ] まで

#### 一、カラオケ「紫紺の会」

毎月、楽しく開催♪

・日時：原則 毎月最終週土曜日

(今回は3月4日)

午後3時30分〜6時15分

・場所：ひじり館2F和室

・会費：500円

・のど自慢の方も苦手な方も、お茶、ビールで喉を湿らせて一緒に楽しみましょう。会場予約の状況により、日時が変更になる場合は、連絡します。

さの中に落ち着きもあり、本当に素晴らしい迎賓館でした。それに当館は本来ここに招待されたお客様が、そのお礼として招待者をおもてなしする場所とか。初めて知りました。残念ながら今回和風別館は見学出来ませんでした。皆で美しい主庭、噴水池を散策、時間があつたので四ツ谷駅前でお茶をして新宿駅西口に向かい、飲み放題居酒屋で暑気払いの後、解散しました。

## 二、東京証券取引所&

### 歌舞伎鑑賞

日時：平成29年2月16日(木)  
 集合：地下鉄銀座線・銀座駅  
 A7出口10時  
 ・会費：3,500円程度

## 三、第8回ディスクゴルフ大会

日時：平成29年3月25日(土)  
 場所：昭和記念公園  
 多摩支部より実施要領が届き次第参加者へ連絡します。

## 会員活動便り

### 一、園芸日誌(No.2)

森 和子(S39文)

立秋の頃より蓮華升麻が咲きだします。はかなげにうつ向いて咲く姿はなかなか可憐です。色は淡い灰紫ともいいましようか。中々丈夫でもう何年も同じ鉢です。

トカゲもこの頃は多く、三種類程住み着いています。好きな動物ではありませんが、観察しているとそれなりに面白く、ヤツと飛び上がって蝶をとらえ損なったり、大ドジで私に踏まれて身障トカゲとなっても毎年現れたりします。



秋は菊ですがたいしたのはなく、野紺菊、小輪の白菊、ごく淡い薄紅の小菊くらいなもので余り手をかけてはいません。十月末位まで花すべりひゅが小さな花になって咲いています。秋ばらも小さめに咲き、ばらの実が大小とりどりに成っています。わりと大きな実の葡萄が成りますが、ひよどりが朝早くに来てついばんでいます。もう

来春の用意で土をふるったり、種まき、球根の植え替え、日本桜草の植え替えと一番庭仕事の多い季節です。この時期は増えた日本桜草をアチコチと押し付け、北は秋田、南は福岡まで、我が家で育った花が旅をする季節です。いずこの土地でも咲いております。

冬の庭は山茶花、赤のごく普通の品種。狭いプランターや日陰でも咲くのはうれしいことです。球根がぼつぼつ芽をだし、早い年は年内にス



花に囲まれて

ノードロップが開いてきます。プランター植えなので球根がふ

えることもなく、毎年スノードロップの球根を買い足しています。名前のように白くうつ向き、中心の外縁は緑です。連光寺公園には何本か山茶花の大木があつて寒い日々になぐさめとなつています。入口のすぐそばには白梅の木があり、毎年のように山繭がぶら下がっています。

## 二、ペシャワールのモスク

煤田 成美(S41法)

この絵は、パキスタンのモスクを描いたものです。第47回現水展の新人賞でした。



ペシャワールのモスク

このモスクから一日5回コーランが流れます。"アッラーは偉大なり"イスラムにとってアッラーこそが唯一の神なのです。

町は何時も埃をかぶり、ハエが飛ばう汚い町です。そして爆発がしょっちゅうあり、例えば、スズキの軽トラックに爆薬を積んで、マーケット

に突っ込み爆発させるのです。私の家のガラスが音と共にビリビリとゆれます。その場に居合わせれば死傷します。政権が不安定な国はこれが日常なのです。

ある時、軍の弾薬庫が爆発しました。沢山のロケット弾が飛び出し、イスラマバードの町中に飛び散りました。私が家の屋上から見ていると、あちらこちらに沢山の砂煙が上がりますが、それが再び爆発しません。ロケット弾に信管がついていなかったもので、幸い再爆発しなかったわけです。夕方、警官が地面にさきついているロケット弾を、ひとつひとつ自転車の荷台に乗せて運んでいきました。なんとなくユーモラスでした。実際はこの時、兵士や民間人が五千人くらい死んでいると思われませんが、いつさい発表はありませんでした。

ある日、家に来ている電気屋の"赤歯のおじさん"が涙ぐんでいます。赤歯と言うのは、赤い木の実を口の中でガムのように噛んでいるため、歯や、口が真っ赤になっているのです。そのおじさんが、娘がいなくなつてしまったというのです。そうです。人さらいなのです。最悪の場合、インドに売られ、手や足を切られ、見せ物となつてお金を稼ぐ子供にさせられる。悲しい話です。こ



んな世界は、私がいた20年以上前のイスラマバードの姿でした。今はもう少し治安もよくなっていると思います。ペシヤワールはイスラマバードの隣の町です。今もコーランがこのモスクから流れていることでしょう。

## 新刊本の紹介

### 一、「首里王府と八重山」

新城 敏男(S 53 院)

第43回「伊波普猷(いはふゆう)賞」を受賞しました。この賞の名称は聞きなれないかもしれませんが。沖縄の父と尊称される伊波普猷の業績の継承と沖縄学発展を担うことを顕彰する賞です。「沖縄県」ではなく、奄美諸島から沖縄県におよぶ広範囲の人文科学、自然科学を網羅するものです。日本は、北は北海道から南の沖縄県まで長く続く列島です。当然その地域の文化も異な

ります。その文化圏は、北海道を中心とする北文化圏、日本本土の中国文化圏、南西諸島の南文化圏の、北・中・南に三区区分するのが、基本です。沖縄学の呼称はこの南文化圏と重なります。

沖縄県は都道府県別の土地面積では44位ですが、県域は広大で日本の有人島の最南端は沖縄県の波照間島、最西端は与那国島です。県域は海を含めると広大で、沖縄島南部を長野県にあてると、大東諸島は房総沖、与那国等は愛媛県、硫黄島島は新潟県南部、波照間島は土佐湾に当たる。南西諸島のもつ広い文化圏を理解してもらえるかと思えます。

明治12年に沖縄県となるまでは琉球王国であり、1609年に島津氏の侵攻を受けるまで独自の国でした。侵入後に薩摩の支配を受けました。その後も以前からの中国との冊封関係は継続します。その結果、江戸幕府と中国にも属する、いわゆる両属体制をとることになりました。琉球独自の文化を基礎として、日本文化と中国文化の導入というあらたな文化形成がみられるようになりました。異なる文化の伝播と受容を考える場合、そのテーマを如実に示す地域でもあります。ここに「沖縄学」という独自の学問が成立しました。学問

のみならず、沖縄県民のアイデンティティをも考えることにもなります。その内政を考えることで、王国の性格を考察したのが本書です。

また、王府は沖縄本島と近辺の離島を直接支配し、近くの久米島と遠海の宮古と八重山(両先島という)には蔵元(政庁)を置き、間接支配しました。三地域は当然その立地条件を異にします。この間接支配となる八重山はどのようなかを解明したいとの願望が本書です。

17本の論文を収める本書の内容は多岐にわたりますが、③「信仰・宗教」で、従来はほとんど注目されることがなかった念仏者の位置づけが画期的論文と評価されました。

受賞の講評では、『いずれも丹念に資料を読み込んで、緻密な分析を通して対象と向き合っており、評価の高い研究である。中でも「規模帳」と、「八重山家譜」に関する研究はひとつの到達点をしめしている。』と言われました。この研究は、他の間接支配地域で実態が明らかにされ比較されれば、王府全体の領国支配が明らかになることでしょう。(名桜大学名誉教授) \*定価14,800円。岩田書院出版。購入ご希望の方は左記までご連絡ください。新城敏男 Tel・Fax

### 二、「土砂災害と防災教育」

「命を守る判断・行動・備え」

今村 隆正(S 59 文)



「生きる確率を高める」

自然災害から、生きる確率を高めるためには3つの大事なことがあります。何だと思えますか？ 私はこのように考えています。「知識」、「関心」、そして何よりも、これさえあれば一つ目も二つ目も簡単にクリアできる「自分心」です。

自分心というのは、ここでは、自分のことを大事にする意識を強く持つこと、という意味で私は使っています。自分は生きる価値のある人間だ。何が何でも生きるんだ。そんな意識が一人一人に高まれば、命を守るための勉強をすることや、関心・知識を身に着けることは容易です。この本では、自然災害に対する防災教育の中から土砂災害に焦点を当てて執筆しました。日本は60%以上が山地から成っています。古来より山崩れによる災害が沢山ありま

す。例えば、関東大震災の犠牲者の80%以上は火災によるものでしたが、横須賀市では、山が一気に崩れて100人の人が亡くなりました。また、小田原市では、大規模な山崩れと土石流によって300人ほどの人が亡くなっています。また、阪神大震災でも火災の映像がテレビで何度も放映されましたので、死因の多くは火事と思っっている方が沢山いるかもしれないませんが、実際は圧死です。そして、山崩れでも34人の方々が亡くなっています。

このように、土砂災害は常に私たちの身近で多数発生しています。津波に対する防災教育の指導書は数多く出版されていますが、土砂災害についてはほとんど存在していませんでした。このような状況に鑑み、この分野の先駆者が中心となって執筆しました。本書は専門書ですので、広く一般向けの内容ではありませんが、行政の方々や学校の先生、地域のリーダーとなる方を中心に読んでいただければ幸いです。



趣味

水彩画を描く シリーズ⑤

中山雅雄(S37法)



冬の澗

会員の動静

(順不同・敬称略)

入会者

寺岡杏里(H08農) 浜崎幸夫(S51法)  
金野義勝(S40文) 浅沼紀雅(S36法)

退会者

残念ながら一身上の都合により次の方々が退会されました。

新谷昭子(S40経営) 菅野三津男(S38農)  
会員数93名(平成28年12月現在)  
会員相互の動静もお知らせください。

会員ギャラリー  
自慢の一葉⑧



①雲湧針峯 シャモニー(フランス)  
撮影者 鶴田勇雄(S37法)



②サンコウチョウ 子育て中(♀)  
撮影者 矢場岩男(S43商)

会費納入のお願い  
未納の方は、お手持ちの振込用紙にてお支払いをお願いいたします。

編集後記

充実した誌面になりました。投稿者に感謝!! 今後も「紫紺」への投稿をお待ちしております。  
・編集作業も大詰めの本日、東京は雪。予報では、特に西日本は大雪になりそうだと。事故なきことを祈つて。  
・新会員のご紹介をお願いします。

多摩市地域支部ホームページの  
閲覧とご利用をお願い致します。  
<http://meijikoyu-tamashi.jimdo.com/>

明治大学校友会多摩市地域支部

検索

会員登録・行事への参加申し込みは  
HPからできます。